




論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第755号	氏名	柳田 博子
学位審査委員	主査	渡邊 郁哉	
	副査	原 宜興	
	副査	中村 卓	
<p>最終試験の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究の目的は従来のセファロ分析に代わる侵襲の低い三次元模型分析を用いた歯科矯正治療の新しい評価法の開発と従来の手法と今回開発した手法の測定精度を検討することである。オリジナリティならびに臨床的重要性は非常に高く、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 セファロ分析と三次元模型分析の測定精度の評価を Dahlberg の公式および95%CI を用いて検討し、本研究で計測法がセファロ分析よりもより精度の高いものであることを証明し、治療前後の歯の移動動態を表す回転中心の位置を算出した。研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 初診時セファログラムのみで、以降の治療過程において、被曝を伴わず印象採得のみで治療評価が可能であることが明らかとなった。また、回転中心の位置を視覚的にわかりやすく表現できる方法も確立した。 本研究で得られた知見は臨床応用も可能であり治療期間の短縮につながる治療方法の確立に寄与するものである。</p> <p>以上のように本論文は歯科矯正学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			
<p>(注) 報告番号は記入しないこと</p>			